

東和地域支援室通信

令和4年10月号

東和総合支所地域振興課地域支援室：東和町土沢8区60 電話 41-6514(直通)

花巻市民芸術祭【東和会場】舞台部門開催のお知らせ

日時 11月3日(祝) 午前9時～午後5時

会場 東和総合福祉センター

出演団体

南部流成島鹿踊、金津流丹内獅子躍、春日流落合鹿踊、都山流尺八同好会、倉沢サンサ踊り保存会、香也の会、東和水木会、東和吟詠会、東和ハーモニー、東和三弦会、大償流土沢神楽、岳流石鳩岡神楽、岳流浮田神楽、岳流南川目神楽、社風流神楽

土沢まつり権現舞&鹿踊り群舞を行いました

9月17日(土)土沢商店街にて、土沢まつりで、東和町芸術文化協会主催の権現舞&鹿踊り群舞を行いました。神楽団体4団体、鹿踊り団体3団体の計7団体が出演しました。3年ぶりの開催のため人出も多く、一斉に開始した群舞に土沢商店街が熱気で溢れました。



花巻市民芸術祭【東和会場】展示部門を開催しました

10月1日(土)・2日(日)、東和体育館にて展示部門を開催しました。全32の団体・個人による多種多様な作品の数々が会場を彩り、2日間で約600名が来場しました。



東和吟詠会の大菅喜久男さん、多田悦子さんが受賞されました

9月17日(土)に開催された日本コロムビア全国吟詠コンクール東北地区決選大会において、東和町芸術文化協会加盟団体である東和吟詠会会長の大菅喜久男さんが準優勝、多田悦子さんが入賞となりました。

受賞おめでとうございます。

大菅会長は12月4日(日)に東京都で開催されるコロムビア全国吟詠コンクール決選大会に出場されます。





元地域おこし協力隊の岡田芳美さんによる連載企画。『E-Ju はなまき』はUターンの岡田さんとIターンの旦那さんが発起人となり立ち上げた移住者のためのプロジェクトです。『E-Ju』は“移住”と“いい住まい”の意味。さらに奥田民生さんの「E-Ju★ライダー」へのオマージュを込めているそうです。

こんにちは！E-Ju はなまきの岡田です。実は、結構多いと思っている県内移住。今回は北上市から移住され、東和町中内にお住まいの渡辺さんにお話をお聞きしました。

☆.☆.☆.☆.☆.☆.☆ インタビュー 第4弾 渡辺 郁美さん ☆.☆.☆.☆.☆.☆.

▼移住に至るまでと少しの不安

結婚後、北上の駅近で夫の両親と同居していましたが、マンション暮らしがやっぱり合わなくて…。2、3年かけて探し、4年前に夫と子どもと東和町に移り住みました。薪ストーブを入れたくてかなりリフォームしましたね。ちなみに山と田畑もついています。当時は子どもが2歳で、隣町とはいっても知らない土地に拠点を移すことに不安もありました。子育て支援センターさんには大変お世話になりました。

▼東和にきて4年になり…

やっと少し落ち着いてきて、今年は試しに畑もやってみました！すっかり大きくなって家の周りを走り回っている子どもを見ていると、東和に来てよかったなあと感じます。ご近所の方にお声掛けいただいたり、ママ友もでき、地域でのつながりもだんだんに広がってきました。

▼これから…

手のかかる幼児期の子育てと年齢的な不調も重なり大変な時期もありましたが、昨年子どもも入園。最近仕事にも行きはじめました。来年は、畑ももう少しやりたいですし、趣味の手仕事も少しずつできればと思っています😊

E-Ju はなまきWEBでは渡辺さんのインタビュー全文がお読みいただけますのでぜひご覧ください→



かわいいコンパクトな木のお家



東和の生き物12か月

野鳥(サシバ)の研究で修士課程を修了した地域支援室 糸川拓真主査が東和地域で観察できる生き物について解説します。

10月 厄介な空飛ぶ隣人スズメバチ

東和の町も10月に入りました。あれだけ暑かった夏の様相もどこへやら、冬さながらの寒さに襲われる日も増えてきました。北方で繁殖を終えた夏鳥たちも渡りの最中の時期となります。秋の虫たちの鳴き声がよく通るこの季節ですが、自然の多い場所では、その中でブンブンと不快感を煽る音が混じることもあります。今回は、その音の主、スズメバチの紹介をしたいと思います。

スズメバチは、日本で13種生息していると言われる全長2cm~5cmほどの大型のハチで、その凶暴な性格とアナフィラキシーショックを引き起こす強い毒から日本で一番人を殺している動物とも言われ、まさに人の天敵とも呼べる昆虫です。中でもキロスズメバチは、建物や人に身近な隙間などに巣を作ることから、最も被害件数が多いハチです。食性は動物食が主で、花の蜜なども採取しますが、昆虫を捕食し、また幼虫などに与えます。

5月頃より、女王バチが小さな巣を作り、働き蜂を育てます。夏場、育った働きバチは活発に飛び回りながら巣の拡張や餌の運搬を行ない、巣内では、女王バチが次世代の女王バチ、雄バチを生み、働きバチらとともに育てます。10月などの秋口は、次世代のハチが育ちきる直前で、かつ餌も少なくなることから、さらに凶暴になると言われております。やがて冬を迎える頃、次世代のハチ達は巣立ち、土中などで越冬し、残った旧世代のハチは女王バチを含め全員死ぬ、という1年のサイクルがとても明確な特徴を持つ動物です。

さて、スズメバチの中で最も大型で獰猛なのはオオスズメバチですが、昆虫界で一方的に最強というわけでもないようです。カブトムシには針が届かず追い払われたり、オニヤンマとは食べたり食べられたりや熾烈なライバル関係にあります。また、土中に巣を作るためクマや、以前紹介したハチクマという鷹には巣ごと襲われるためまさに天敵となっています。餌としているミツバチからも熱殺蜂球で返り討ちに合うことすらあります。

人に被害を与え、まさに害虫の代表格とも言えそうなスズメバチですが、人を襲うのは基本的に巣や自分達の防衛のためです。また、人にとっての害虫も捕食していることから、益虫としての側面も持ち合わせており自然のバランスの一角を担っています。

自然豊かな東和町は、必然的にスズメバチとの距離も近いことから、いそうな場所には香水など強い匂いのするものをつけていかない、クマと勘違いされる黒い恰好をしないなどの対策を取りほどよい距離感を保っていきたいところです。



絵：地域支援室伊藤